

備前市施策評価シート

(平成22年度事業)

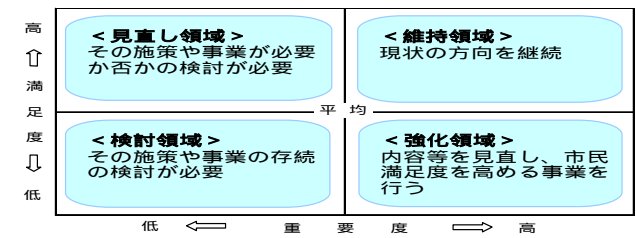
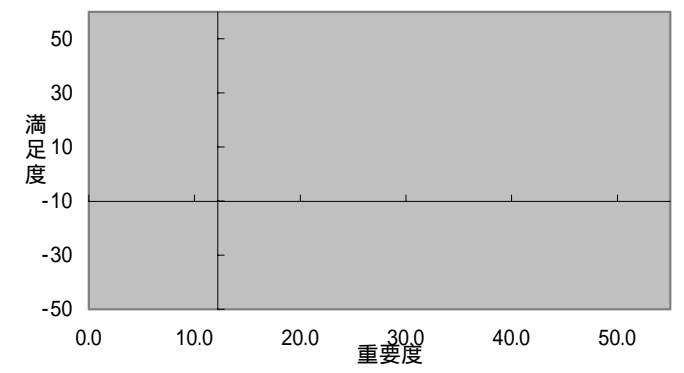
施策名 (小項目)	文化財の保存と活用	コード	作成者	役職	生涯学習課長
		03-03-02	氏名	末長章彦	
			電話	64-1841	
			このシート作成に要した時間	3.0 時間	

備前市総合計画の内容から記載する

政策の体系	基本目標(大項目)	地域文化と人が輝くまちづくり
	基本施策(中項目)	歴史と文化の輝くまちづくり
対象と目的 (誰のために、何のために)	旧閑谷学校や備前焼をはじめとする備前の歴史や文化財に関心のある人に対し、積極的に公開活用し、地域文化の理解を図る。	
現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	本市に存する指定文化財等の保護保存を図り、郷土を正しく理解する資料として活用するため、調査研究を進めなければならない。	
施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の保護・保存・活用                     <ul style="list-style-type: none"> <li>開発や腐朽、被災から守るためのパトロール実施</li> <li>備前焼の総合的調査研究、史跡整備にむけた基礎作業実施</li> <li>フォーラムなどによる情報発信</li> </ul> </li> <li>旧閑谷学校世界遺産登録の推進                     <ul style="list-style-type: none"> <li>閑谷学校世界遺産登録推進委員会による、閑谷学校の歴史的意義の周知活動</li> <li>世界遺産登録検討専門委員の会議開催並びに委員指導による調査研究</li> </ul> </li> </ul>	

市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度	H20	H21	H22	H23
重要度(%)				
満足度(%)				



調査結果に対するコメント、市民の反応等	世界遺産シンポジウム参加者アンケートで、建築や東アジアの教育から閑谷学校を見る視点が新鮮であるとか、人が生きていくために学ぶことを礼を通して身につけるなど現在の学校にも求められるものがあるなど、資産の持つ意義の説明は多くの人が求めていると分かった。
調査対象でない施策は、市民の反応等	

施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単位	過年度実績		評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
		H20	H21	H22		H23	H28
成果指標 指定文化財等対応件数	目標	人	125.0	130.0	140.0	H23	150.0
	実績	人	132.0	137.0	145.0	H28	150.0
	達成率	%	105.6	105.4	103.6	-	-
	ベンチマーク						
参考指標 旧閑谷学校世界遺産登録検討専門委員による指導延べ委員数	目標	人			40.0	H23	40.0
	実績	人			18.0	H28	-
	達成率	%			45.0	-	-
	ベンチマーク						
参考指標 世界遺産シンポジウム参加者数	目標	人		300.0	200.0	H23	300.0
	実績	人		240.0	160.0	H28	-
	達成率	%		80.0	80.0	-	-
	ベンチマーク						
参考指標	目標					H23	
	実績					H28	
	達成率	%				-	-
	ベンチマーク						

施策構成事務事業の評価

施策を構成する事務事業	事務事業評価結果 A~E (高~低)	細事業	事業分類	事業費等(単位:千円,人)												施策への貢献度	
				平成20年度				平成21年度				平成22年度					平成23年度
				直接事業費	人件費	人工数	当	直接事業費	人件費	人工数	当	直接事業費	人件費	人工数	当初予算 (直接事業費)		
1	文化財保護事業	B	文化財保護管理運営事業	補助	1,403	3,949	0.60	7,161	4,561	0.68	4,036	4,516	0.57	11,239			
			備前焼総合調査史跡整備事業	補助	7,805	2,844	0.38	4,031	3,025	0.45	8,316	1,894	0.24	8,615			
2	旧閑谷学校世界遺産登録推進事業	C	閑谷学校世界遺産登録推進委員会事務事業	単市	100	3,027	0.38	950	3,520	0.85	950	2,133	0.23	950			
			旧閑谷学校世界遺産登録推進事務事業	単市							1,508	1,563	0.19	2,674			
				この施策に費やした資源(単位:千円,人)													
				平成20年度				平成21年度				平成22年度				平成23年度	
				9,308 9,820 1.36				12,142 11,106 1.98				14,810 10,106 1.23				23,478	

以外で、目標達成に必要な新規事業及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果

施策の評価

項目	評価	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い	
		判断理由(なぜ、そのランクと評価したのか)	
1 <成果指標の妥当性> 施策の目的・成果を表現しているか?	4	市内の文化財を保存していくことは重要で、特に備前焼の調査研究は、本市のアイデンティティ確立のためにも不可欠と考える。市民の郷土愛を醸成することが基本的な狙い。	
2 <事業構成の妥当性> 手段は最適か?	3	世界遺産登録推進室の体制を整え、委嘱した世界遺産登録検討専門委員の指導の下、閑谷学校の暫定一覧表登載に向けての研究も進展した。他資産との連携については、共通のテーマ設定に苦慮している。	
3 <施策の有効性> 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは?	3	世界遺産登録に向けての提案書提出は23年度を目標としているが、他資産所在自治体との意見調整にはまだ時間を要す。	
進行年度(H23年度)の取組内容(課題解決状況)		地域の歴史や文化財を中心にすえたまちづくりを考えようと、歴史文化基本構想の策定に着手した。併せて地域内文化を確認する作業として仏像調査を実施する。	
翌年度(H24年度)の取組目標		文化財の保存については従前のとおり実施するが、指定・無指定を問わず地域に存する文化財を活用し、地域ごとに特色のあるまちづくりを構想する。	
二次評価者コメント		郷土を良く知りこよなく愛し、市民の誰もが誇りを持てるまちづくりを实践するため、地域の歴史的な事物を検証することは重要と考える。世界遺産登録にむけた活動では、340年に亘り祖先が守り続けた閑谷学校の意義を検証し、今の教育制度にも取り入れるべき「近世の学び」を研究していく。	
役職	教育次長		
氏名	竹中史朗		

基本施策への貢献度	3 中立
-----------	------

市長コメント	市民の郷土を愛する心を育てるとともに、閑谷学校の世界遺産登録を推進し、備前市の文化を世界に発信していく。
--------	--